

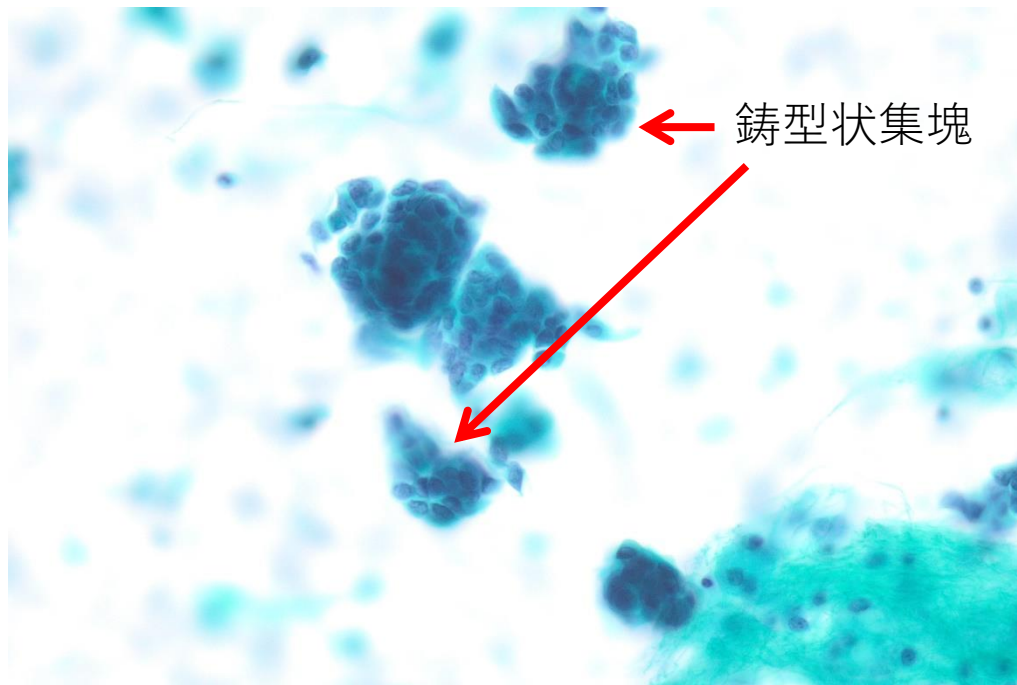
中部徳洲会病院

症例番号 3

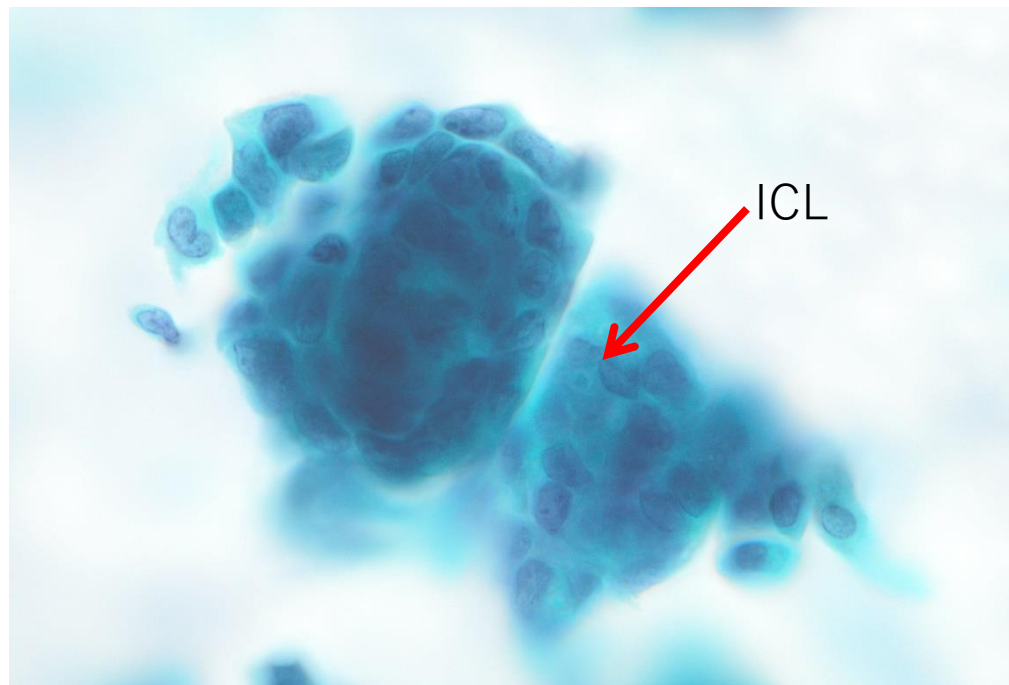
1、細胞診判定 Class V 浸潤性乳管癌 硬癌

<所見>

リンパ球を背景に、小型の異型細胞を集塊状に認めます。N/C比は高く、クロマチンは細顆粒状にやや増量を認めます。集塊は重積し、鑄型状配列を呈し、一部にICLを認めます。



× 40



× 100

中部徳洲会病院

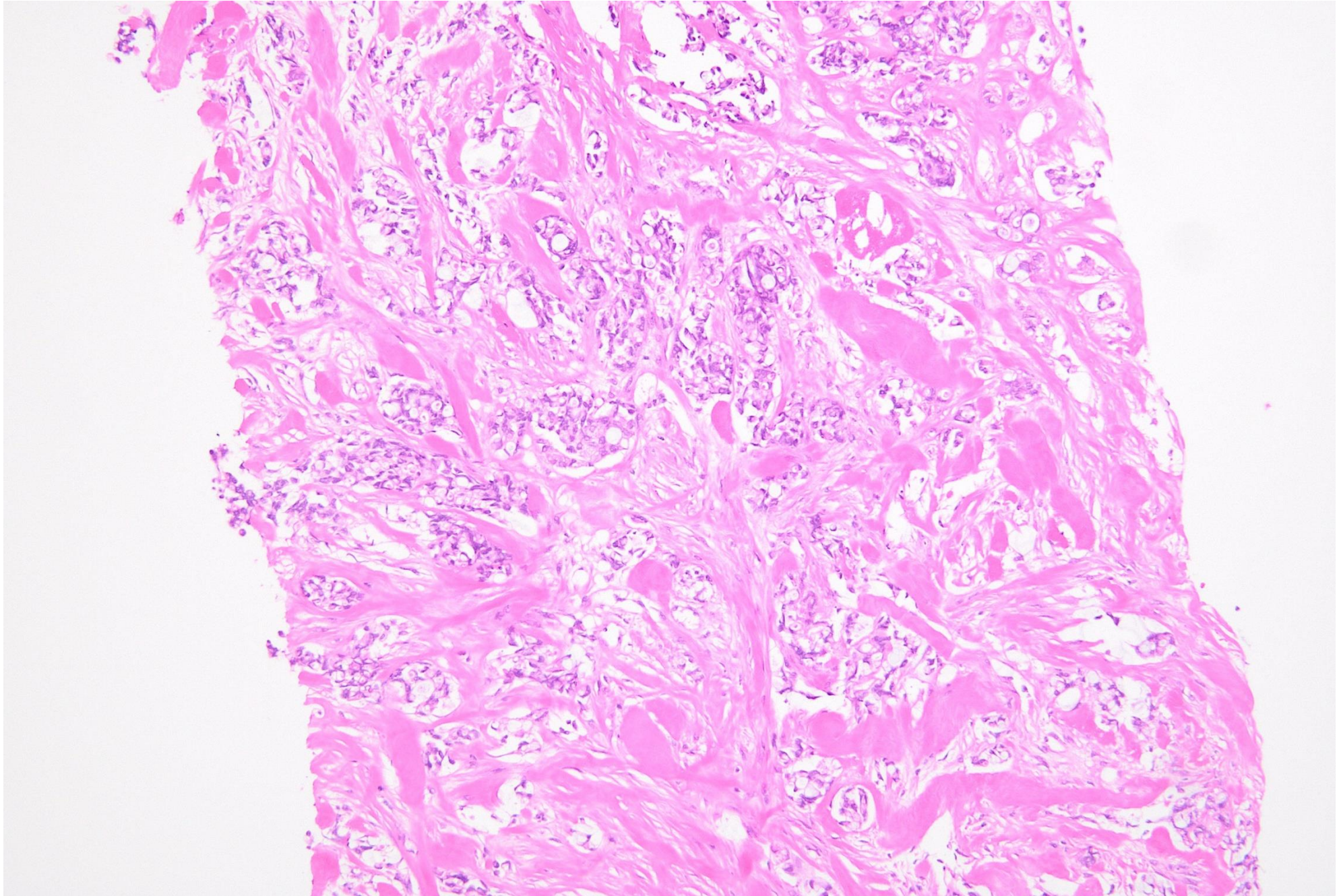
症例番号 3

2、組織診断 左乳腺C腫瘍針生検 浸潤性乳管癌、硬性

<所見>

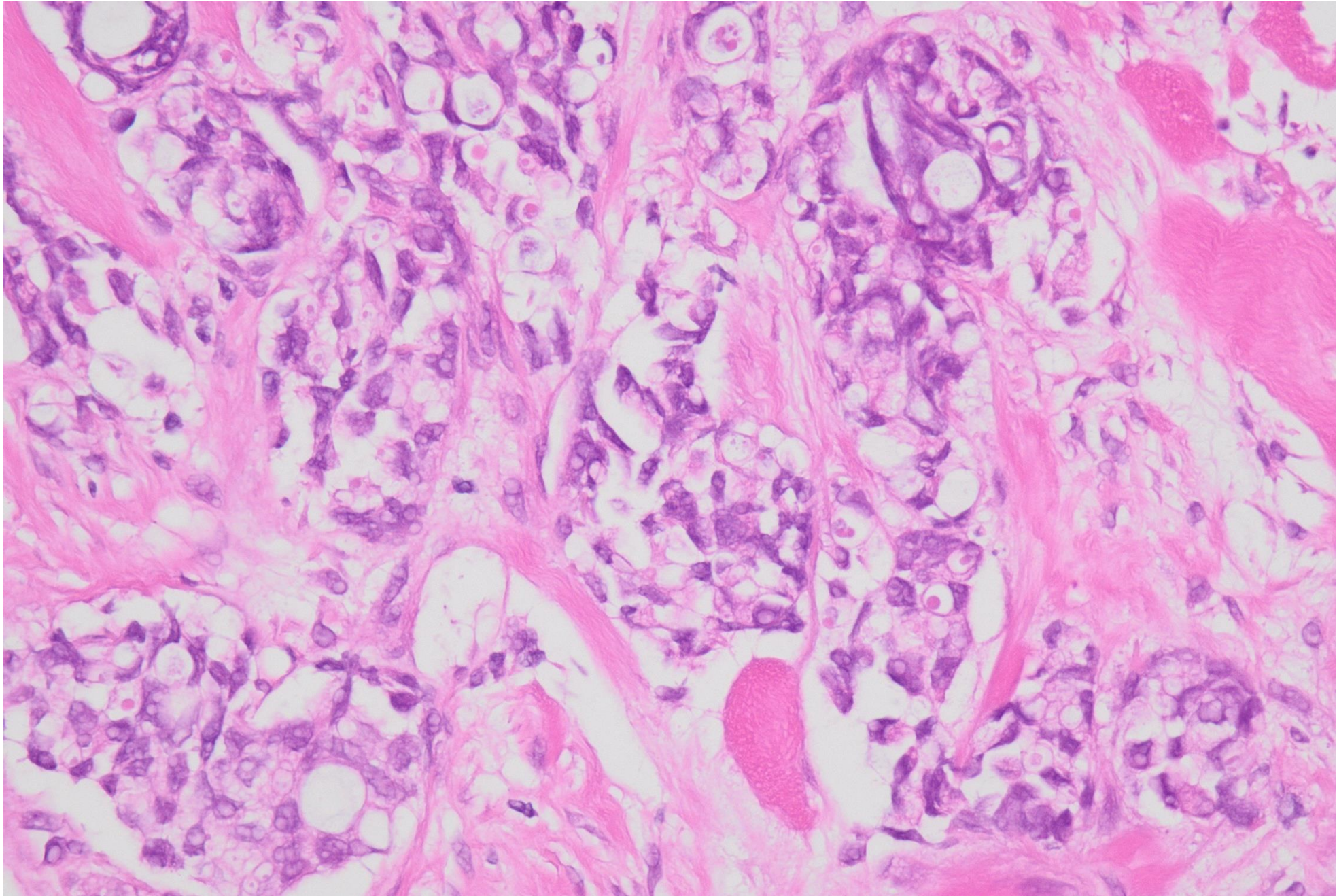
小型立方状の異型細胞が豊富な膠原繊維を伴い、小塊状に増殖・浸潤しています。

3、組織像



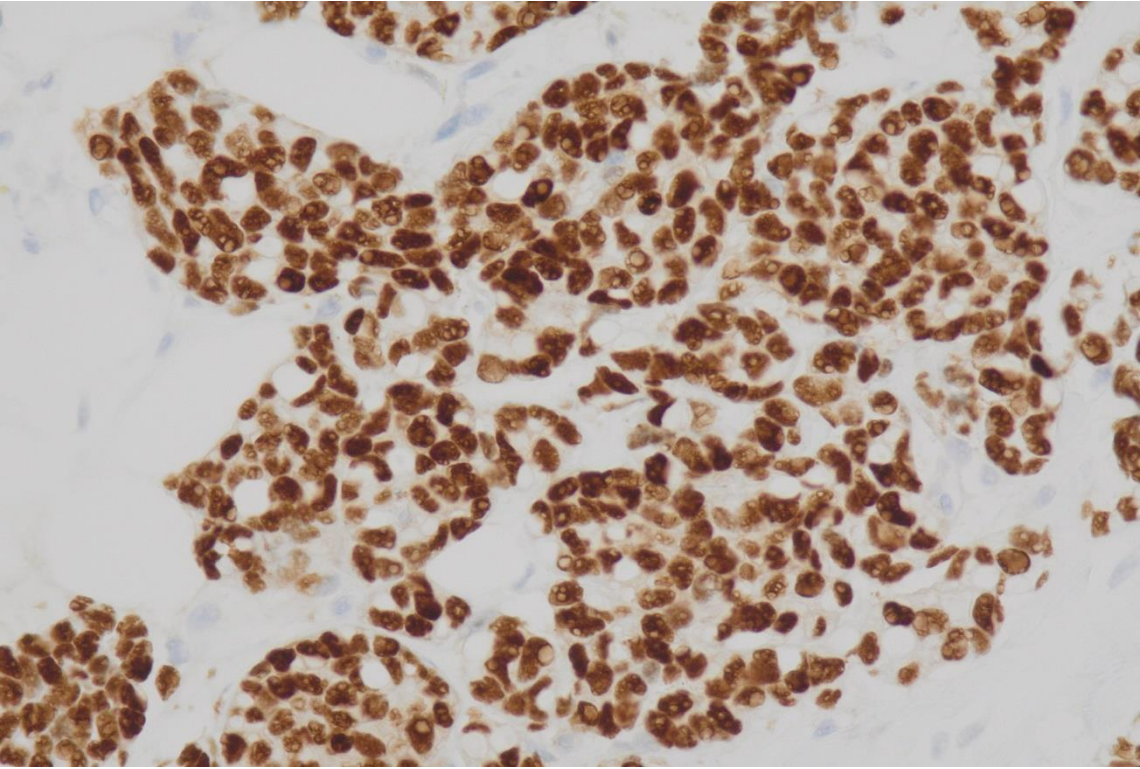
HE染色
×10

3、組織像

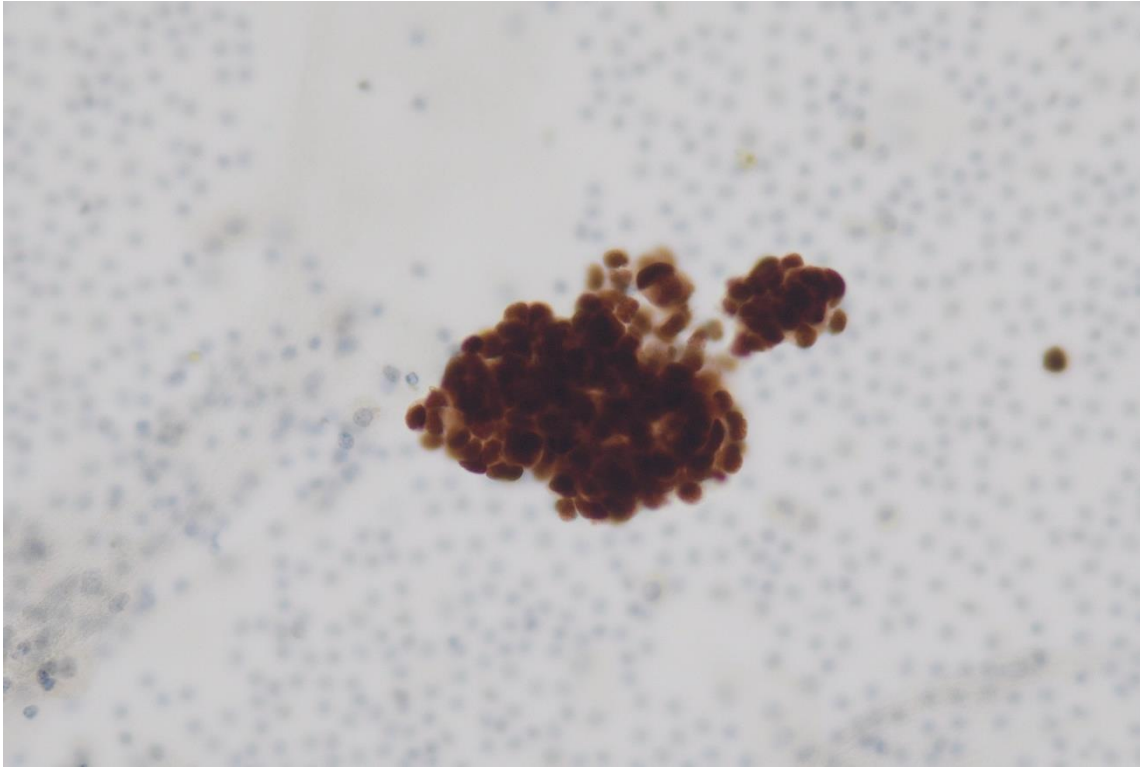


HE染色
×40

免疫染色 ER



針生検
×40



胸水
×40

中部徳洲会病院

症例番号 3

4、まとめ・ポイント

左乳腺腫瘍（浸潤性乳管癌）が右胸水検体に出現した症例を経験しました。CT検査では、左乳腺C領域に腫瘍を認め、皮膚浸潤・大胸筋浸潤を伴い、腋窩リンパ節の転移や右気管支周囲リンパ節増大、両側胸水少量を認めました。

右胸水に出現した異型細胞は、上皮性結合した集塊状で核異型を有し、またICLも認めました。CT検査の所見と合わせることで、浸潤性乳管癌（硬癌）を疑うことができました。

体腔液検体に、小型の細胞が集塊状に出現したとき、リンパ球の集簇あるいは小細胞癌やその他悪性腫瘍の鑑別をしなくてはなりません。集塊は上皮性結合を認めるのか、細胞同士が重なっているだけなのかや、核異型の有無や細胞質の観察、また画像検査の所見や免疫染色と合わせることで重要と考えます。